

【論点資料】

職業に関する各教科の 目標・内容の構造化・表形式化について

①

🔗 学習指導要領の目標・内容の構造化・表形式化イメージと具体化が必要な論点

以下の①～⑤について、総則・評価特別部会で一定の方針を示した上で、各教科等WGで具体の検討を進め、企画特別部会や本部会が適宜調整することとしてはどうか。また、各教科等WGの具体的な検討内容を踏まえ、本部会としても必要に応じて各検討項目の整理を一層適切なものとしていくこととしてはどうか。

令和7年10月14日
総則・評価部会
論点資料

目標

(柱書)

(見方・考え方)を働かせ、(学習過程)を通して、(資質・能力の趣旨)資質・能力を次のとおり育成することを目指す

(資質・能力の柱ごとの目標)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

①

検討項目① 見方・考え方

- ・見方・考え方について、目標にどのように記載すべきか
- ・各教科等の見方・考え方の記載に共通すべき留意点は何か

②

検討項目② 学びに向かう力・人間性等

- ・学びに向かう力・人間性等について、目標にどのように記載すべきか
- ・各教科等の学びに向かう力・人間性等の目標の記載に共通すべき留意点は何か

③

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式

- ・内容の表形式化について、具体的にどのような形式とすべきか
- ・教科等の性質を踏まえて複数の形式を許容する場合、どういったパターンが考えられるか
- ・その際、「学年区分の柔軟化」の方向性を踏まえた学年区分の示し方をどのように考えるか。学年区分の示し方を柔軟化する場合、学年別目標を示さないことについてどのように考えるか

④

検討項目④ 中核的な概念等

- ・各教科等の「中核的な概念の深い理解（仮称）」「複雑な課題の解決（仮称）」（以下「中核的な概念等」という。）が共通に備えるべき性質・役割等をどのように考えるか
- ・「中核的な概念等」について、教師にとってわかりやすく現行学習指導要領の趣旨を一層実現する観点からどのような名称で示すべきか

⑤

検討項目⑤ 中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選

- ・「中核的な概念等」を踏まえて、個別の内容事項をどのように選択し、精選していくべきか

内容

(知識及び技能)

(思考力、判断力、表現力等)

中核的な概念の深い理解（仮称）		複雑な課題の解決（仮称）	
●年相当	・ ・ ・	・ ・ ・	
●年相当	・ ・ ・	・ ・ ・	
(内容の取扱)			



第2回WGの論点

第2回

1. 職業に関する各教科等を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方

- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の示し方。

目標

(現行)

- の見方・考え方を働かせ(見方・考え方)、
 - することなどを通して(学習過程)、
 - に必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)、
- を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

議題(1)：目標の示し方の整理(特に柱書)

(改善のイメージ)

- する資質・能力(資質・能力の趣旨)について、
 - することなどを通して(学習過程)、
- 次のとおり育成することを目指す。

※「(見方・考え方)」は別途整理。

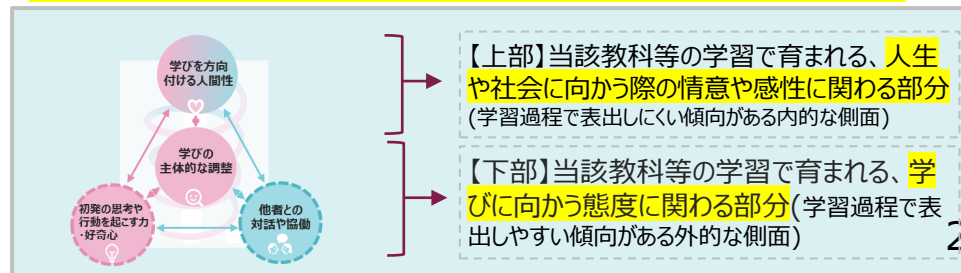
知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

議題(2)：見方・考え方の示し方の整理

(見方・考え方)

- (当該教科で扱う事象や対象)を●●(当該教科固有の物事を捉える視点)の視点から捉え(に注目して捉え)、●●(当該教科固有の考え方や判断の仕方)すること。

議題(3)：学びに向かう力・人間性等の示し方の整理





議題 (1)

目標の示し方

職業に関する各教科における目標【柱書】の改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書

- ● の見方・考え方を働かせ（見方・考え方）、
 - ● することなどを通して（学習過程）、
 - ● に必要な資質・能力（資質・能力の趣旨）、
- を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在の目標の柱書は、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載。冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないと分からない。

<論点整理で示されたこと>

- 目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

- ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、
 - ● することなどを通して（学習過程）、
- 次のとおり育成することを目指す。

※「（見方・考え方）」は別途整理。

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

【現行】職業に関する各教科の目標の柱書（農業の例）

- 農業の見方・考え方を働かせ（見方・考え方）、
実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程）、
農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な
発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨）、
を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------



方向性と論点

- 産業教育に関する各教科の目標の柱書は、企画特別部会において、見方・考え方は別途整理することとした上で、①資質・能力の趣旨、②学習過程（教科の特徴的な活動）を端的に示すと方向性が示されている。
- ①資質・能力の趣旨は、各教科の関連する産業や社会の「健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を、②学習過程（教科の特徴的な活動）には、専門高校で重視すべき学習活動として、「実践的・探究的な学習活動を行う」としてはどうか。
- 職業に関する各教科の学びを深めるためには、**共通教科の学びも重要**となるが、こうした観点から**目標において配慮すべきこと**にはどのようなものがあるか。

イメージ

補足資料 1

地域や社会、産業の健全で持続的な発展を担う職業人として
必要な資質・能力（資質・能力の趣旨）について、
実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程）、
次のとおり育成することを目指す。

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

職業に関する各教科における目標の「柱書」の改善（イメージ）

補足資料 1

	知識・技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
※ 産業	地域や社会、産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
農業	農業や農業関連産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
工業	ものづくり産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
商業	経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
水産	水産業や海洋関連産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
家庭	生活産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
看護	保健・医療の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
情報	情報及び情報技術に関連した社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
福祉	地域共生社会の実現及び地域福祉の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨） について、 実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程） 、次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

※産業教育の「目標」は高等学校学習指導要領に示されていないため、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）で示したものをもとにイメージとして作成。

(参考) 現行学習指導要領における目標の記述

参考資料 1

	知識・技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
農業	農業の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
工業	工業の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
商業	商業の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
水産	水産の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
家庭	家庭生活に関わる産業の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
看護	看護の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、看護を通じ、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	看護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
情報	情報に関する科学的な見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
福祉	福祉の見方・考え方(見方・考え方)を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して(学習過程)、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す。 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

※青字は事務局において補足



議題 (2)

見方・考え方の示し方

職業に関する各教科における見方・考え方の記述の方向性について

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導くといった観点だけでなく、よりよい社会や幸福な人生に繋げるものと位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

参考資料 2

分かりやすく、使いやすiを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

<総則・評価部会で整理されたこと>

(見方・考え方)

- ● (当該教科で扱う事象や対象) を ● ● (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着眼して捉え) 、 ● ● (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

(見方・考え方に含める要素)

- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方

(見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項)

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか

職業に関する各教科における見方・考え方の記述の方向性について



方向性

- 職業に関する各教科の見方・考え方については、企画特別部会において、①当該教科が扱う事象や対象、②当該教科固有の物事を捉える視点、③当該教科固有の考え方や判断の仕方を端的に示す方向で整理すると示されている。
- その際、③については、実際の職業に繋がる教科であることから、当該産業や産業に関わる社会の発展とともに、職業人としての自己の成長に関わる考え方や判断の仕方を含めてはどうか。

イメージ

<産業教育の見方・考え方の要素>

補足参考資料2

	現行（前回答申より）	改善のイメージ
当該教科等が扱う事象や対象	社会や産業に関する事象を、	社会や産業に関する事象を、
当該教科固有の物事を捉える視点	職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、	職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、
当該教科固有の考え方や判断の仕方	人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの創造や質の向上等と関連付けること	職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげること

職業に関する各教科における見方・考え方の改善イメージ

補足資料 2

	見方・考え方	見方・考え方の具体案
※1 産業	産業の見方・考え方の要素	①社会や産業に関する事象を、②職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげる
農業	農業の見方・考え方	①農業や農業関連産業に関する事象を、②生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげる
工業	工業の見方・考え方	①工業に関する事象を、②よりよいものづくりを創出する視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、社会の発展につなげる
商業	商業の見方・考え方	①企業活動に関する事象を、②利益の追求と社会的責任の視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげる
水産	水産の見方・考え方	①水産や海洋に関する事象を、②海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげる
家庭	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方	①生活産業に関する事象を、②生活の質の向上の視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげる
看護	看護の見方・考え方	①健康に関する事象を、②当事者の考えや健康レベルの視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、より健康的な生活の実現や保健医療の発展につなげる
情報	情報に関する科学的な見方・考え方	①情報に関する事象を、②課題解決や価値創造の視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげる
福祉	福祉の見方・考え方	①日常生活に関する事象を、②人間の尊厳と自立の視点で捉え、③職業人としての自己の成長と、地域共生社会の推進につなげる

※1：産業教育の「見方・考え方」は高等学校学習指導要領に示されていないため、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）より抜粋。

※2：①～③の数字は、「見方・考え方に含める要素」である、①「当該教科等が扱う事象や対象」、②「当該教科固有の物事を捉える視点」、③「当該教科固有の考え方や判断の仕方」をそれぞれ示している。

現行の解説における職業に関する各教科における見方・考え方の記述

参考資料 2

高等学校学習指導要領解説より

	見方・考え方	
産業※	産業の見方・考え方の要素	社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの創造や質の向上等と関連付けること
農業	農業の見方・考え方	農業や農業関連産業に関する事象を、安定的な食料生産と環境保全及び資源活用等の視点で捉え、持続可能で創造的な農業や地域振興と関連付けること
工業	工業の見方・考え方	ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること
商業	商業の見方・考え方	企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けること
水産	水産の見方・考え方	水産や海洋に関する事象を、漁業生産や船舶運航、海洋工学、情報通信、資源増殖、水産食品の製造や流通、海洋の環境保全や活用などの視点で捉え、地域や社会の健全で持続的な発展と関連付けること
家庭	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方	生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること
看護	看護の見方・考え方	健康に関する事象を、当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること
情報	情報に関する科学的な見方・考え方	情報産業に関する事象を、情報技術を用いた問題解決の視点で捉え、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切かつ効果的な活用と関連付けること
福祉	福祉の見方・考え方	生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けること

※産業教育の「見方・考え方」は高等学校学習指導要領に示されていないため、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）より抜粋。



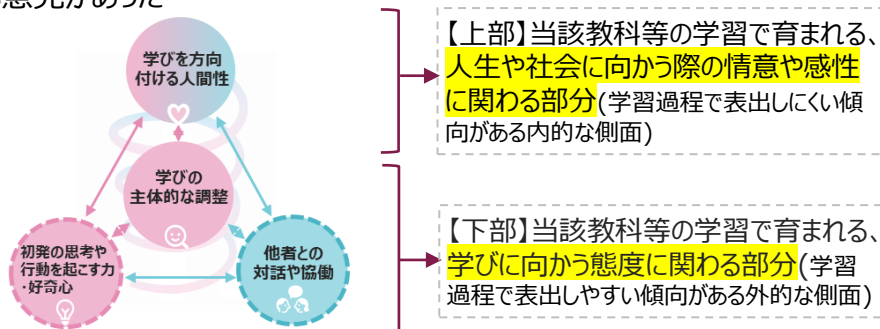
議題 (3)

学びに向かう力・人間性等

職業に関する各教科における「学びに向かう力・人間性等」の記述の方向性について

＜教育課程企画特別部会で整理されたこと＞

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



＜総則・評価部会で整理されたこと＞

- 「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込もうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す
（現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度（中・理科））
→ 学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す
（現行の例：自然を愛する心情（小・理科）、明るく豊かな生活を営む態度（中・体育）など）



方向性

- 職業に関する各教科の目標における「学びに向かう力・人間性等」の記述について、4つの要素を踏まえつつ、総則・評価部会で整理された「①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度」、「②当該教科等の学習で育みたい情意・感性」の要素を含めた記述とすることによりか。
- その際、4つの要素は、学習過程との関係で検討・整理していくこととし、当該整理をもとに更なる検討を進め、より洗練された言葉で示していくこととしてはどうか。（補足資料3参照）
- 「学びを方向付ける人間性」は、社会の一員としての態度及び個人として目指すべき人間性の両面から捉えてはどうか。
- また、産業教育に関する各教科の目標を現行同様、職業に関する教科という共通性から各教科概ね同様の内容としてはどうか。

【現行】産業教育の学びに向かう力・人間性等（中教審答申（平成28年12月））

職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

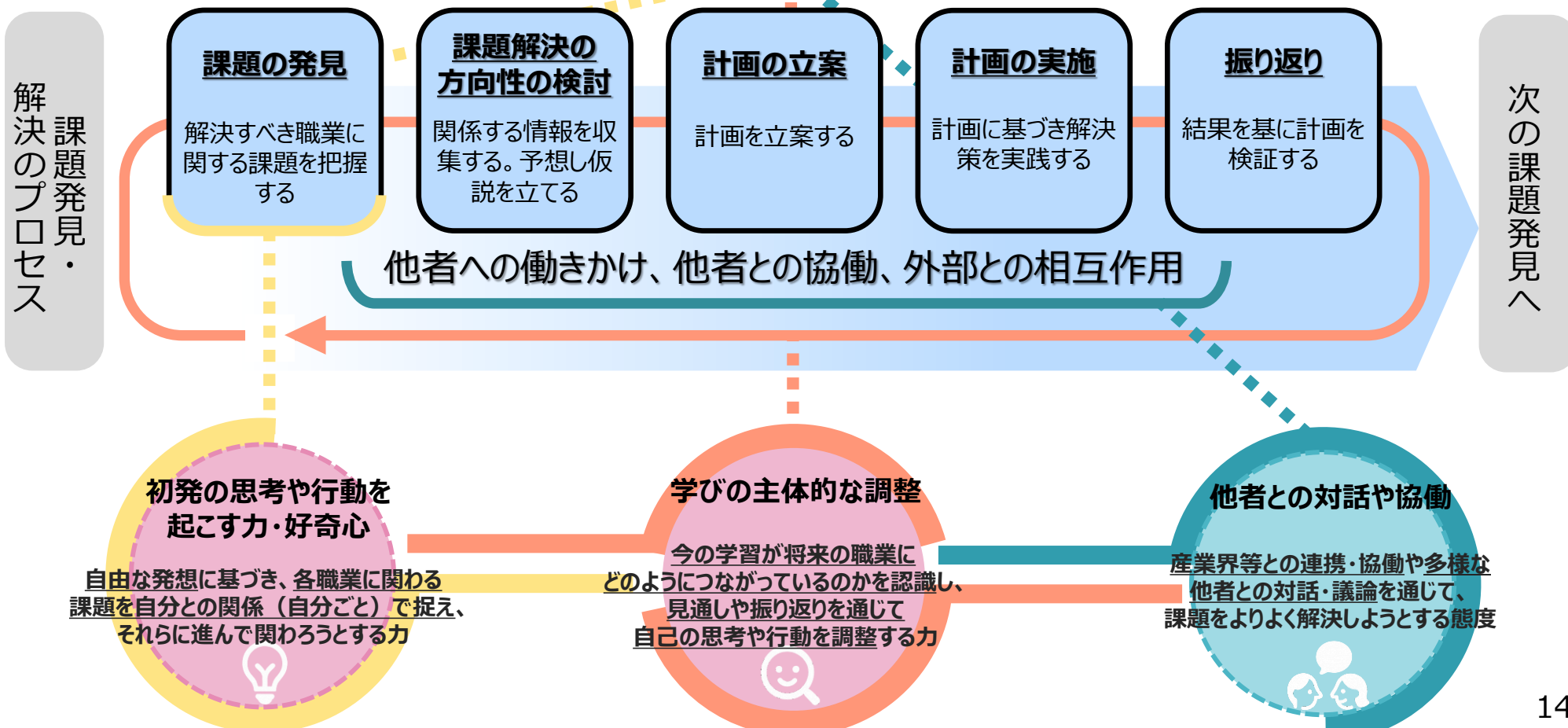
【改善のイメージ（要素）】

- ① 各職業に関わる課題を自分との関係で捉え、（初発の思考等）多様な他者との対話・協働を通してそれらをよりよく解決しようとする態度。
（他者との対話や協働）
職業人としての視点から自己の思考や行動を調整する力。
（学びの主体的な調整）
- ② 職業人としての倫理観と豊かな人間性。社会の一員としてよりよい社会を実現しようとする態度。（学びを方向付ける人間性）

学びを方向付ける人間性

社会の一員として：より良い社会を実現しようとする態度
個人として：職業人としての倫理観及び豊かな人間性

産業教育の学習過程のイメージ（※）



現行の各教科等における「学びに向かう力・人間性等」の記述

	学びに向かう力・人間性等
産業※	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
農業	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>農業の振興や社会貢献</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
工業	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>工業の発展</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
商業	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>ビジネスの創造と発展</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
水産	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
家庭	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>生活の質の向上と社会の発展</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
看護	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>人々の健康の保持増進</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
情報	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>情報産業の創造と発展</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
福祉	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、 <u>福祉社会の創造と発展</u> に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

※産業教育の「学びに向かう力・人間性等」は高等学校学習指導要領に示されていないため、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）より抜粋。

論点に関する参考資料

学習指導要領の目標・内容の構造化・表形式化イメージと具体化が必要な論点

以下の①～⑤について、総則・評価特別部会で一定の方針を示した上で、各教科等WGで具体の検討を進め、企画特別部会や本部会が適宜調整することとしてはどうか。また、各教科等WGの具体的な検討内容を踏まえ、本部会としても必要に応じて各検討項目の整理を一層適切なものとしていくこととしてはどうか。

令和7年10月14日
総則・評価部会
論点資料

目標

(柱書)

(見方・考え方)を働かせ、(学習過程)を通して、(資質・能力の趣旨)資質・能力を次のとおり育成することを目指す

(資質・能力の柱ごとの目標)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

①

検討項目① 見方・考え方

- ・見方・考え方について、目標にどのように記載すべきか
- ・各教科等の見方・考え方の記載に共通すべき留意点は何か

②

検討項目② 学びに向かう力・人間性等

- ・学びに向かう力・人間性等について、目標にどのように記載すべきか
- ・各教科等の学びに向かう力・人間性等の目標の記載に共通すべき留意点は何か

③

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式

- ・内容の表形式化について、具体的にどのような形式とすべきか
- ・教科等の性質を踏まえて複数の形式を許容する場合、どういったパターンが考えられるか
- ・その際、「学年区分の柔軟化」の方向性を踏まえた学年区分の示し方をどのように考えるか。学年区分の示し方を柔軟化する場合、学年別目標を示さないことについてどのように考えるか

④

検討項目④ 中核的な概念等

- ・各教科等の「中核的な概念の深い理解（仮称）」「複雑な課題の解決（仮称）」（以下「中核的な概念等」という。）が共通に備えるべき性質・役割等をどのように考えるか
- ・「中核的な概念等」について、教師にとってわかりやすく現行学習指導要領の趣旨を一層実現する観点からどのような名称で示すべきか

⑤

検討項目⑤ 中核的な概念等を踏まえた個別の内容の選択・精選

- ・「中核的な概念等」を踏まえて、個別の内容事項をどのように選択し、精選していくべきか

内容

(知識及び技能)

(思考力、判断力、表現力等)

中核的な概念の深い理解（仮称）		複雑な課題の解決（仮称）	
● 年 相 当	・ ・ ・	・ ・ ・	
● 年 相 当	・ ・ ・	・ ・ ・	
(内容の取扱)			



検討項目①

見方・考え方

1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ（**見方・考え方**）、言語活動を通して（**学習過程**）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（**資質・能力の趣旨**）を次のとおり育成することを目指す

【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在、各教科等の目標の柱書には、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないといけない。

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」とも位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

（目標）

● ● する資質・能力（**資質・能力の趣旨**）について、● ● することなどを通して（**学習過程**）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

● ● （**当該教科で扱う事象や対象**）を● ● （**当該教科固有の物事を捉える視点**）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （**当該教科固有の考え方や判断の仕方**）すること。

（見方・考え方に含める要素）

- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

（見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）

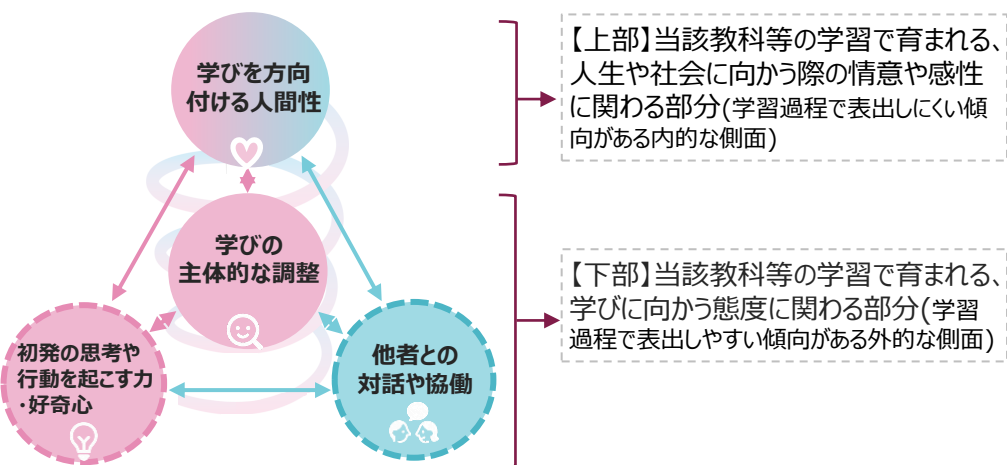


検討項目②

学びに向かう力・人間性等

1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている
- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

2. 1. を踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込もうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度（中・理科）)
→学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す
(現行の例：自然を愛する心情（小・理科）、明るく豊かな生活を営む態度（中・体育）など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要
- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか（この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様）



「見方・考え方」の現在の位置付け

- 前回改訂では、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、これからの社会で生きていくための資質・能力を身に付けるための学びの過程として「主体的・対話的で深い学び」を提起した
- 一方、「主体的・対話的で深い学び」だけでは、
 - ① 各教科等の深い学びの具体的な姿がイメージしにくい
 - ② 各教科等の学びにより、人生や社会との関わりがどう豊かになるのかイメージしにくい 等の懸念が生じた

このため

- 資質・能力と教科等の学びを架橋するため、「見方・考え方」を提起し、各教科等の目標の一部として位置付けた（詳細は解説で記載した）

【定義】どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかというその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方

- 上記①②に対応し2つの側面で説明されてきており、授業改善に一定の成果があったといえる

側面① 各教科等の学びの深まりを示す

教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで深い学びが実現され、よりよく資質・能力を育成でき、資質・能力の育成により「見方・考え方」が一層豊かになる

側面② 各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す

学びを通じてどのような教科等固有の世の中を見る視点や考え方が身につくのかを示すことにより、教科等を学ぶ本質的な意義を明らかにし、学びをよりよい社会や幸福な人生に繋げていく役割がある



課題と方向性

令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 P 20

1. 当初の役割を十分に果たせていない

- 見方・考え方は各教科等の目標の一部になっているが、その具体は、解説を読まないと分からない
- 教科等によっては解説の記載が複雑かつ抽象的で分かりにくい（「見方・考え方」が①「各教科等の学びの深まり」と②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」という2つの側面を有していることも影響）

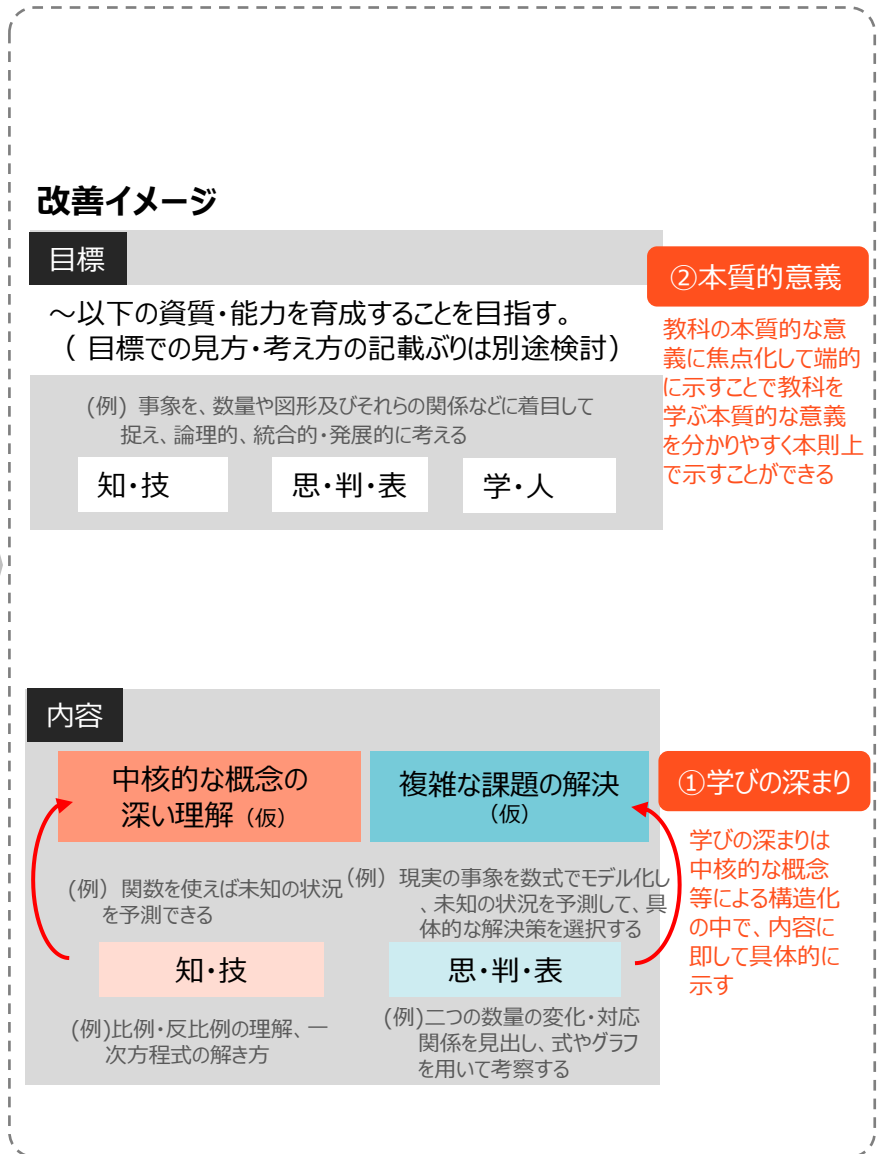
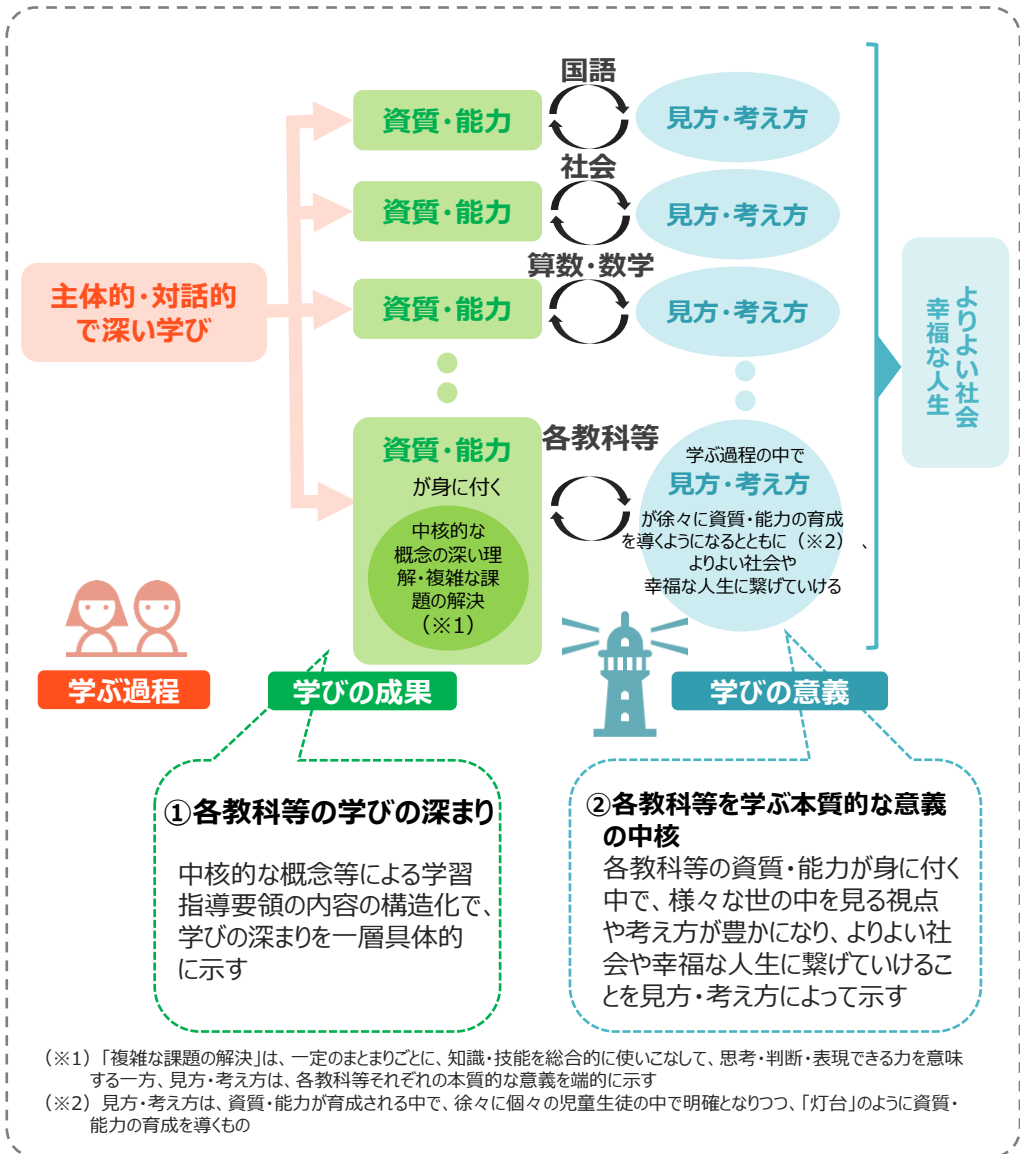
2. 「中核的な概念等」との整理が必要

- 第2・3回の特別部会では、各教科等の「中核的な概念等」の視点から
 - (1) 個別の知識及び技能が相互に関連づけられた「教科の主要な概念の深い理解」
 - (2) 個別の思考力、判断力、表現力を総合的に働かせた「複雑な課題の解決」を抽出し、一層の構造化を図ることとした
- この方針で進める場合、「見方・考え方」（とりわけ側面①各教科等の学びの深まり）との重複感が出る

これらを踏まえると

- 「見方・考え方」の側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」による資質・能力の構造化によって一層具体的に示し、
- 「見方・考え方」自体は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していくこととする方向で検討すべき

今後の見方・考え方の役割の改善イメージ



※従前の見方・考え方の整理は、見方・考え方が資質・能力の一部と誤解される遠因となっていたことから改善を図り、見方・考え方は、資質・能力（中核的な概念等を含む）の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋げていける学びの本質的な意義として整理する

各教科等の特質に応じた見方・考え方（中学校の例）

※中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 <抄>

令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理参考資料P46

言葉による見方・考え方	対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。
社会的事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
数学的な見方・考え方	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科の見方・考え方	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
音楽的な見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。
造形的な見方・考え方	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。
体育の見方・考え方	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。
保健の見方・考え方	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。
技術の見方・考え方	生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。
生活の営みに係る見方・考え方	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。
探究的な見方・考え方	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること。
集団や社会の形成者としての見方・考え方	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現と関連付けること。

各教科の目標の柱書の一覧（中学校の例）

※中学校学習指導要領（平成29年告示）

国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切 に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家 及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
数学	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
理科	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
音楽	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社 会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
保健体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し 豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
技術・家庭	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
外国語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
総合的な学習の時間	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
特別活動	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。



【学習指導要領上の位置付け】

「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力としての位置付け

- 児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）をどのような方向で働かせていくかを決定付けるものと整理されている
- その要素は多岐にわたるが、おおむね以下のように整理できる
 - ① **主体的に学習に取り組む態度、メタ認知等**
主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度 など
 - ② **協働する力、持続可能な社会づくり、感性・人間性等**
多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど

小学校国語

言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

中学校理科

自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

中学校音楽

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

高等学校数学

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【顕在化している課題】

1. 学びに向かう力等の育成は道半ば

- 左記①については、我が国の児童生徒は、
 - ✓ 自律的に学ぶ自信がある子供、
 - ✓ 自分で課題を立て探究に取り組む子供
 - ✓ うまいくか分からないことに意欲的に取り組む子供
 - ✓ 自分の考えを持つ子や夢を持つ子供
- の割合が低い ※日本企業の従業員のワークエンゲージメントが低いとのデータもある
- 左記②については、
 - ✓ 社会参画の意識は向上傾向だが、依然として他国と比べて弱い
 - ✓ 自己有用感が低い
- 変化の激しい時代において、自身の思いや願い・意志を実現し、自身の人生を主体的に舵取りしていく力が求められている中、全体として「学びに向かう力、人間性等」を涵養できる学校教育の実現は道半ばといえる

こうした視点で学習指導要領等を見てみると

2. 育成を目指す資質・能力の具体が理解しにくい

- 「学びに向かう力、人間性等」として、多岐にわたる要素が列挙されているが、全体像が分かりにくい。近年注目されているウェルビーイングやエージェンシーとの関係も整理が必要である
- 「学びに向かう力、人間性等」に対応した学習評価の観点として「主体的に学習に取り組む態度」を設定したが、前回改訂後に提示された、当該観点の2側面である「粘り強さ」「自己調整」のみで、より大きな資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」が理解される事態が生じた
- 上記1. の我が国の児童生徒の課題を踏まえて、学校現場の実践に繋がる分かりやすい構造的な再整理を行う必要がある



- 「学びに向かう力、人間性等」については、その他の2つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」）と併せて整理したことで、授業改善に一定の成果を上げている
- このため、「学びに向かう力、人間性等」を基本的な概念としては存置しつつ、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく提示すべき
- その際、各種調査から我が国の子供たちの課題と考えられる「まず考えてみること、行動してみること」等も「学びに向かう力、人間性等」の要素と位置付け、以下4つの要素により整理する方向で検討すべき

- **初発の思考や行動を起こす力・好奇心**
- **学びの主体的な調整**
- **他者との対話や協働**
- **学びを方向付ける人間性**

※「初発の思考や行動を起こす力」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力、人間性等」が育まれる

- その上で、各教科等の目標について、
 - ✓ 再整理した「学びに向かう力、人間性等」と、
 - ✓ 既に検討した「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」に応じた「中核的な概念等」
 を踏まえ、各教科等の特性も踏まえながら改善していくべき

構造的な整理を検討する上での参考

- 変化が激しい時代において、主体的に自らの人生を舵取りしていくためには、思考や行動の終点がひとつに定まっていないような課題や状況に対して、培った資質・能力を活用して初発の思考や行動を起こしていくことが必要。このことは一人一人の個性的な人生形成の基礎となる

※溝上慎一委員「インサイドアウト思考」（第6回資料1）

- また、初発の思考や行動がひとりよがりなものとなったり、意味のあるまとまりを失ったりしないよう、他者との関わりや自己のメタ認知等を働かせる中でそうした思考や行動を修正（自己調整）し、それらを往還しながら、よりよい学びやその先にある豊かな人生・よりよい社会に向かっていくことが重要となり、このことはより高い水準での主体性の育成に繋がる

※OECD Learning Compass 2030（第6回参考資料1-1）

（エージェンシーと共同エージェンシー）

※溝上慎一委員「主体的な学習スペクトラム」（第6回資料1）

※石井英真委員「主体性のタキシミー」（第6回資料1）

- こうした初発の思考や行動を自ら起こし、他者との関わりやメタ認知により思考や行動を修正していくといったことを往還する学びのプロセスは、教科等の基本的な概念を深く理解し身体化（記号接地）したり、創造的な考えを生み出したりする上で重要である

※今井むつみ委員「アブダクション推論とメタ認知」（第6回資料1）

学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ

【現行の記述】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

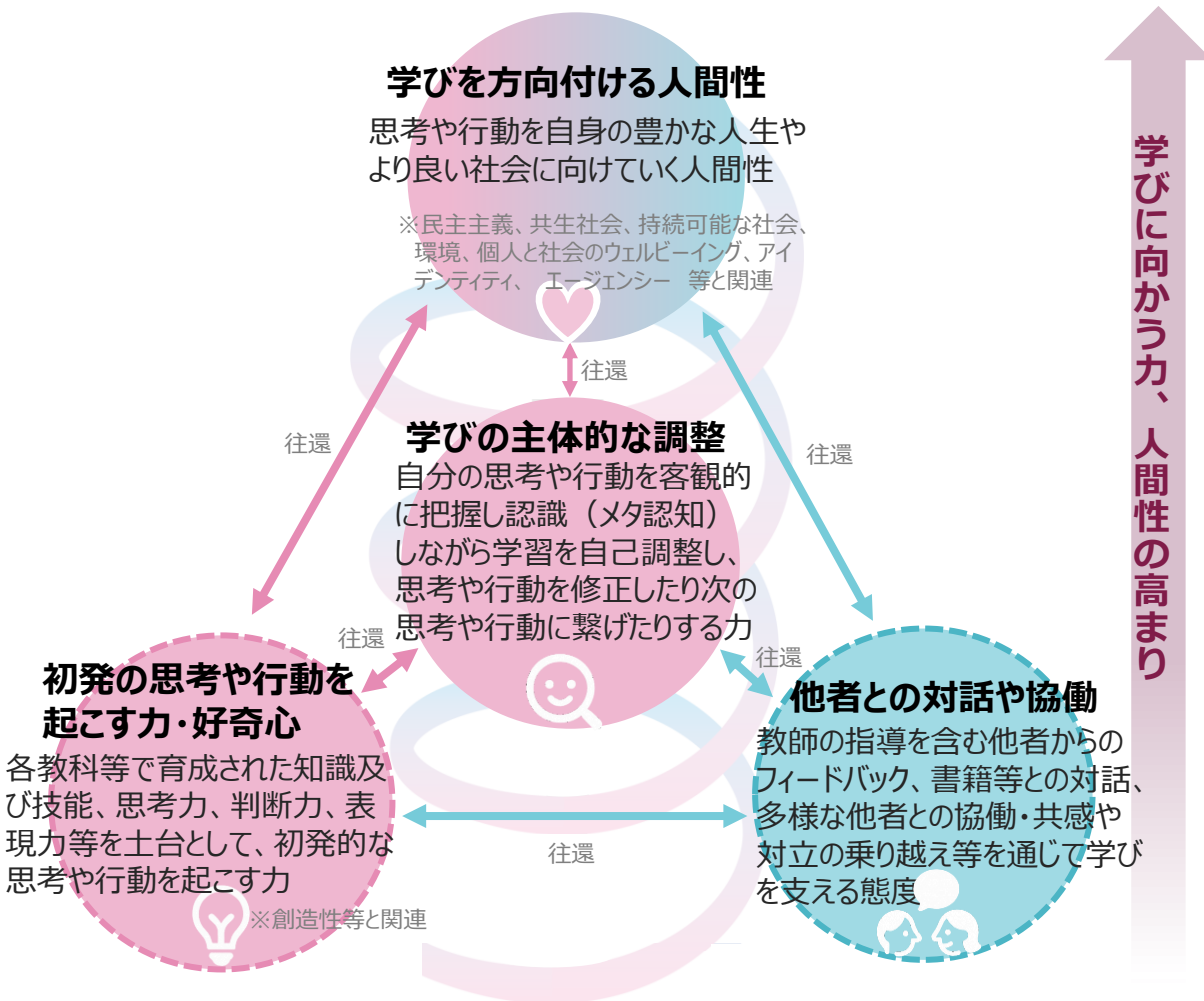
(中略)

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ】

**変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、
社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む**



※「初発の思考や行動を起こす力」と、「学びの主體的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力 人間性等」が育まれる

各教科の学びに向かう力、人間性等の目標一覧（中学校の例）

※中学校学習指導要領（平成29年告示）

国語	言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
社会	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
数学	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
理科	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
音楽	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。
美術	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
保健体育	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
外国語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
総合的な学習の時間	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
特別活動	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。